

〔評価結果の公表様式〕

愛知県福祉サービス第三者評価事業 評価結果

①第三者評価機関情報

評価機関名: 特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント (認証番号: 25地福第2227-2号)
訪問調査 実施日: 平成28年 1月 27日(水)

②事業者情報

名称:(法人名) 碧南市 (施設名) 社会福祉法人碧南市社会福祉協議会 荒子保育園	種別:(施設種別) 保育所 (基準の種類) 児童福祉施設(保育所版)
代表者氏名:(施設長) 杉浦 かおり	定員(利用人数): 135 名
所在地: 〒447-0053 愛知県碧南市笹山3丁目29番地	TEL 0566-42-0138

③総評

◇特に評価の高い点

創立40年を迎えた保育園は、平成20年に碧南市社会福祉協議会に移管され、子育て支援センターが併設されている。周辺は閑静な住宅地で、区民館や神社が近くにある。7時30分から18時まで開所し、生後6か月からの5歳児までの受け入れをしている。園舎はステンドグラスがはめ込まれたモダンな色彩の平屋建てで、遊戯室が2階にある。樹齢を重ねた桜や楠などの樹木や手入れの行き届いた花壇があり、四季折々の草花を子どもたちも一緒に植えている。玄関エントランス前に大きな縦の木があり、クリスマスにはツリーともなり、子どもたちに夢を与える保育園のシンボルツリーともなっている。見通しの良い園庭で、子どもたちは全身を使って運動遊びやリズム遊びを楽しんでいる。未満児用の遊具を備えた専用の園庭もあり、小さな歓声を響かせ遊ぶ姿も見られる。

比較的当園在籍年数の少ない職員が多い中、養護と保育の一体的な展開を目指し、施設長初め職員が保育の良さや基礎などについて話し合いを重ね、子どもの心に寄り添った保育を継続する中で、充実感や達成感が子どもたちの姿や言動に表出されている。登降園時に施設長や副園長が門の前に立ち、挨拶を交わしながら保護者とのコミュニケーションを図ったり、保護者や地域の方々の思いや意見を尊重し保育に活かし協力体制を深めていくことで、信頼関係が構築されるようになった。

子どもたちは明るく清潔な保育室や安全性に配慮された園庭で、どの年齢も交じり合い、笑顔に満ち伸びのびと遊び、活気ある生活を送っている。言葉づかいや礼儀も正しく、職員の行き届いた関わりや配慮が見られ、質の高い保育姿勢や保育内容が感じ取られる。職員間の連携や協力関係も良好であり、組織体制が機能され安定した保育が運営されている。

”緑豊かな木々とともにのびやかに育つ荒子保育園”をキャッチフレーズに、”心身ともにたくましく良く遊ぶ子”を目指して、年齢に応じた生活体験や遊び、行事などを子どもと共に話し合いを重ね保育に取り入れながら、子どもの生活や遊びの経験を広げ充実するようにしている。また、「マニュアルの見直し」を職員の研究テーマとして掲げ、日々研鑽をしながら子どもの保育に繋げるように努力をしている。サッカー教室やリトミックなどの運動遊びや地域の老人の方々の協力を得て玉ねぎやさつま芋などの収穫体験、読み聞かせや手品など地域ボランティアとの遊びの体験、地区の文化祭へ園児の作品の展示、バスを利用して遠足に出かけるなど公共の場での交流や地域の人々と積極的に関わられるような保育に心がけ、荒子保育園ならではの特色を保育に活かしている。

#### ◇改善を求められる点

(中・長期計画、事業計画の策定について)

・保育園としての中・長期計画や事業計画は策定の途上にあり、文書化までには至っていない。

・質の高い保育を行うために、理念や基本方針の実現に向けた目標や展望を明確にし、達成していくための具体的な内容に基づき、収支の裏付けを反映させた中・長期計画や事業計画の策定を期待したい。

(マニュアルの見直しと整備について)

・保育園職員の本年度研究テーマとして「マニュアルの見直し」を掲げている。マニュアルの不揃いや整備不足、職員への周知方法等について十分とは言い難い。

・管理運営に関わる分野、保育に関わる分野など保育園の実情を踏まえた、マニュアルや手順書、計画書等の見直しや整備をしたうえでリスト化等を図り、職員会議等で周知していくことを望みたい。

(特別支援を要する子どもの記録について)

・気になる子や特別支援を要する子どもについては、個別指導計画を立て個別記録を取り、ケース検討会で共有を図り子どもの状況に応じた保育をしているが、指導計画の中で子どもの発達状況や課題発達などが読み取りにくい。

・気になる子や特別支援を要する子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるように、その子どもの発達状況や課題発達を指導計画に明記し、指導計画と個別記録との記録内容がより明確で、整合性のある内容になるような工夫を望みたい。

#### ④第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価の結果を受け、園長として反省していくべきことが多々あると改めて感じた。園長を含め4つのグループで自己評価を行ったが、園長が思っていたより職員が出来ていないと感じている部分もたくさんあり、多くの職員がいる中で物事を共通理解することの難しさ、伝える事の難しさ、まとめることの難しさを感じた。また、保護者アンケートの中からも様々なご意見をいただき、早朝・長時間保育を行っている保護者の方とは信頼関係が薄くなってしまいがちなため、保護者の方々と信頼関係を深める努力をしていく。

質の高い保育をしていくための中・長期計画策定について、今回課題として気付かされた。具体的な内容を系列的に計画し文章化して、計画として理解しやすいものと考えていきたいと思う。

今年度より新しい職員が多く、在籍年数の少ない保育士ばかりとなった。そのため、園を知り統一化をはかるためマニュアルの見直しを行ってきたが、当番等で全員が集まるのが難しいこともあり、周知の方法については反省をした。また、管理、運営については、社会福祉協議会に委ねている部分も多いが、地域の中の保育園としての必要性を踏まえ、荒子保育園としてのマニュアルの見直しを図っていきたい。

保育士不足が社会的にも深刻な問題となっているが、そのためにも有給休暇がとりやすい、休憩対応保育士がいる、職務の効率化等働きやすい職場作りに園長として努め、仕事を続けていける環境を整えることにも努力していく。

今回の評価を受け、たくさん気づかせていただき、また、保育を振り返り見直す機会となった。課題はたくさんあるが、子ども達や保護者にとって信頼できる保育園作りをめざしていく。

#### ⑤第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

# 評価項目(細目)の評価結果(保育所)

※すべての評価細目(77項目)について、判断基準(の3段階)に基づいた評価結果を表示する。

## 評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

### I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果	
I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。			
I-1-(1)-①	理念が明文化されている。	保 1	Ⓐ ・ b ・ c
I-1-(1)-②	理念に基づく基本方針が明文化されている。	保 2	a ・ Ⓑ ・ c
I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。			
I-1-(2)-①	理念や基本方針が職員に周知されている。	保 3	a ・ Ⓑ ・ c
I-1-(2)-②	理念や基本方針が利用者等に周知されている。	保 4	a ・ Ⓑ ・ c

### 評価機関のコメント

#### 【理念や基本方針の策定】

・荒子保育園の理念を掲げ、保育園管理案や入園のしおり、入園の情報誌、保育園だより、ホームページ等で明文化している。

保育所の使命や役割、子どもの保育など荒子保育園の保育の特色を明記している。保育園を取り巻く環境や地域社会に対する保育所の使命などは、保育過程の中で示している。

・保育目標と保育の基本方針の明記の仕方が、保育園管理案や入園前の情報誌と入園時配布の冊子とで異なるので、整合性を図り一貫性ある表記にしていけることを望みたい。

#### 【理念や基本方針の周知】

・職員には、理念や基本方針を明記した文書を配布し、年度当初や職員会議、月案作成会議、ミーティング等の折に周知を図るようにしている。また、定期的に機会を設け、保育の現状と基本方針の照らし合わせを継続的に行い、周知状況を確認している。

臨時職員には文書を回覧したり、閲覧できるようにし、必要に応じて施設長が個々の職員に説明をする機会を設けている。

・多様な保育ニーズが実施される中で、臨時保育士の保育への関わりは直接的であり深いと考える。理念や基本方針は、保育に対する考え方や姿勢を示し、職員の行動規範となるものなので、臨時職員にも文書を配布し、会議等でより一層周知や理解を促し、継続的な取り組みをしていくことを期待したい。

・保護者には、理念や基本方針を明記した入園に関する文書を配布し、入園式や父母の会総会、保育参観などで、文書に基づいて説明をしたり、園の便り等に明記して配布している。来園者にも分かるように、玄関や保育室等に理念や基本方針を掲示している。保護者が参加する保育参観や行事の折りに、実際の保育と理念や基本方針を重ね合わせながら保育の経過を話し、周知を図る努力をしている。

保育園の見学に訪れた保護者に情報誌を配布し、保育の特色や保育サービスについて説明をし、理解が得られるように努力をしている。また、保育園の特色や様子がよく分かるホームページを作成したり、情報誌を社会福祉協議会へ設置し、周知を図るようにしている。

・子育て支援センターが併設されているので、日々活用する保護者への啓蒙を図るために、保育園の情報誌を設置したり、区民館や児童館など地域関係諸機関などへ資料を配布し、周知する取り組みを期待したい。

## I-2 事業計画の策定

		第三者評価結果	
I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
I-2-(1)-①	中・長期計画が策定されている。	保 5	a ・ ㉞ ・ c
I-2-(1)-②	中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	保 6	a ・ ㉞ ・ c
I-2-(2) 事業計画が適切に策定されている。			
I-2-(2)-①	事業計画の策定が組織的に行われている。	保 7	㉠ ・ b ・ c
I-2-(2)-②	事業計画が職員に周知されている。	保 8	a ・ ㉞ ・ c
I-2-(2)-③	事業計画が利用者等に周知されている。	保 9	a ・ ㉞ ・ c

### 評価機関のコメント

#### 【中・長期計画の策定、それに基づく事業計画の策定】

・碧南市の子ども子育て支援計画を長期計画としている。保育園としての中期計画は、職場環境、安全、人員増員、修繕など保育園の実情を基本として策定の途上にあり、収支の裏付けもされていない。  
 事業計画については、荒子保育園が目指す特色のある保育、食育の推進、保護者や地域との連携、施設改修工事や安全対策、人材育成等の事業項目を保育過程の中で明記しているが、事業内容の具体性や取組状況などが読み取れない。  
 ・質の高い保育を行うために、理念や基本方針の実現に向けた目標や展望を明確にし、達成していくための具体的な内容に基づいた収支の裏付けを反映させた中・長期計画や事業計画の策定を期待したい。

#### 【組織的な策定】

・保育課程を始め保育に関する単年度事業計画は、職員参画の下に会議等で検討し、合議のうえで計画を策定し、あらかじめ定められた手順や時期に基づいて実施状況の把握や評価を行い、次年度に反映させるようにしている。また、保護者会の意見や意見箱による保護者の意見も取り入れながら策定し、見直しを図るようにしている。

#### 【事業計画の周知】

・各事業計画は職員に書面で配布し、年度当初や会議、保育の検討会等の折に周知を図るように努力をしている。また、職員で進捗状況の確認や見直しをしながら継続的に取り組むように努めている。  
 ・事業内容を職員が理解することは、計画達成のために欠かすことのできない要件と考える。全職員に配布をし、説明をしていくことで全職員の理解や参画意識を高めていくことを期待したい。  
 ・保護者には、入園に関する情報誌の中で行事的な計画を明記し配布している。事業展開の折には具体的な内容を示した書面を配布したり、ホームページや園だより、掲示板、口頭等で継続的な周知をしている。

### I-3 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果	
I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。			
I-3-(1)-①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	保 10	a ・ ⑥ ・ c
I-3-(1)-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	保 11	a ・ ⑥ ・ c
I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
I-3-(2)-①	質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	保 12	① ・ b ・ c
I-3-(2)-②	経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	保 13	① ・ b ・ c

#### 評価機関のコメント

##### 【管理者の責任とリーダーシップ】

###### (管理者の責任の明確化)

・質の高い保育の実施や効率的な運営を目指し、施設長自らの役割と責任について、年度当初に口頭で表明をしている。また、保育園事業計画や職務明細等を用いて会議等で体系的に表明し、職員の意識を確認している。  
 ・施設長は、組織全体をリードする立場として、職員に対して自らの役割と責任を明らかにすることは、職員からの信頼を得るために欠かすことのできない要件と考える。質の高い保育の実施や効率的な運営を職員の協力のもとに実現していくために、文書化を図り、職務明細と併せて、会議等で表明していくことを期待したい。

・遵守すべき法令等の理解については、施設長自ら研修に参加し最新情報を入手し、その内容を職員に提供している。基本的な関連法に關した資料を収集しているが、リスト化はしていない。必要に応じて会議等で資料を配布し、理解を深めるように努力をしている。

・福祉分野やそれ以外の基本的な関連法等をリスト化し、会議で資料に沿って読み合わせをしたり、討議をして理解を深めるような取り組みを望みたい。

###### (管理者のリーダーシップの発揮)

・基本方針に照らし合わせた保育サービスの質に対する課題の把握や改善に向けた取り組みを施設長自ら積極的に取り組み、会議や保育を通して職員と定期的、継続的に評価や分析を行っている。

「マニュアルの見直し」を本年度の研究テーマとして設定し、継続な取組をしている。また、質の高い保育を目指して、保育実践を通して施設長自ら保育士の資質や保育力を高めるために指導力を発揮している。

###### (経営や業務の効率化と改善に向けた取組)

・経営や業務の効率化と改善に向けて、人事、労務、財務等の情報を共有し、改善に向け努力を重ねている。基本方針や保育の実現に向けた人員配置や保育士の特質を活かした保育の実現、事務時間の確保、保育環境の整備等、働きやすい環境を目指して職員の意見も取り入れながら積極的に取り組んでいる。また、保護者対応や子育て支援、地域との連携などにも積極的な取り組みをしている。

## 評価対象Ⅱ 組織の運営管理

### Ⅱ-1 経営状況の把握

		第三者評価結果	
Ⅱ-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
Ⅱ-1-(1)-①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	保 14	a ・ ⑥ ・ c
Ⅱ-1-(1)-②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	保 15	a ・ ⑥ ・ c
Ⅱ-1-(1)-③	外部監査が実施されている。	保 16	① ・ b ・ c

評価機関のコメント

**【事業経営をとりまく環境の把握、経営状況の分析と改善課題の取組み】**  
 ・行政や社会福祉協議会からの情報を得て、社会福祉事業や福祉サービスに対する動向、ニーズを把握するように努めている。また、地域の青少年健全育成協議会や地域の行事などに参加し、保育園を取り巻く地域の保育に対する需要動向等を把握するようにしている。  
 ・保育園を取り巻く地域の保育に対するニーズや需要動向、潜在的利用者に関する情報、子どもの数や世帯構成の変化などを子育て支援センターや園庭開放状況等で把握するように努めているが、データ化はしていない。

・経営上の分析等を行う担当として施設長、副園長が位置付けられており、経営上の課題を解決していくために会議の場で職員の意見を聞くようにしたり、必要に応じて経営状況や改善に向けた取組み等を職員に周知している。開設40年を経過する中で、園舎の老朽化や複雑な構造の園舎環境に伴う環境保全、設備や修繕など安全面や環境などについての改善課題を把握し、社会福祉協議会と連携を図り、継続的な取組みに努力をしている。

**【外部監査の実施】**  
 ・監査委員による監査を受けており改善課題は速やかに改善をしている。また、第三者評価を受審し、経営改善を図るようにしている。

II-2 人材の確保・養成

		第三者評価結果	
II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。			
II-2-(1)-①	必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	保 17	Ⓐ ・ b ・ c
II-2-(1)-②	人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	保 18	Ⓐ ・ b ・ c
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
II-2-(2)-①	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	保 19	Ⓐ ・ b ・ c
II-2-(2)-②	職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	保 20	Ⓐ ・ b ・ c

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
II-2-(3)-①	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	保 21	① ・ b ・ c
II-2-(3)-②	個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	保 22	① ・ b ・ c
II-2-(3)-③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	保 23	a ・ ② ・ c
II-2-(4) 実習生の受入れが適切に行われている。			
II-2-(4)-①	実習生の受入れと育成について基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、積極的な取り組みをしている。	保 24	① ・ b ・ c

### 評価機関のコメント

<p><b>【人事管理の体制の整備】</b>          ・社会福祉協議会の方針に基づき必要な人材や人員体制が整い、保育園の具体的なプランに基づいた人事管理が実施されている。職員に個人面談を実施し、人事体制や配置等について意見を聴取したり、保育園の方針を周知するように努力している。          子どもの遊びや保育の専門性を高めるための研修等、保育園が目指す保育サービスを充実させるための具体的なプランを有し、必要に応じて人材を確保して助言や指導を得ている。</p> <p>・社会福祉協議会の考課基準に基づいた人事考課を導入し、職員に明示し実施している。また、結果のフィードバックを行い、任用や給与等処遇に反映させ、公正な人事管理システムを実施している。</p>	
<p><b>【就業状況への配慮】</b>          ・社会福祉協議会管理の下に、有給休暇、育児・介護休暇、時間外、疾病状況等職員の就業状況を把握し、データ化をしている。          ・職員の希望休暇を確保している。就業状況等について副園長を窓口にして施設長と連携し、個別に職員との面談や相談にも応じるようにしている。          ・良好な職場環境を目指し、サポートを必要とする職員に対して保育カウンセリングやメンタルヘルス相談を受けられる仕組みが整えられている。</p> <p>・社会福祉協議会の福利厚生や健康診断、人間ドック等の健康維持の推進、リフレッシュ事業等積極的に利用している。臨時職員においても、健康診断の機会が確保されている。メンタルヘルスの窓口もあり参加できる体制になっている。</p>	
<p><b>【職員の質の向上に向けた体制の確立】</b>          ・職員の研修体制については、社会福祉協議会の研修計画を基に、職員の研修目的に合った研修に参加できるようにしている。技術水準や専門性の向上に向けた自主的な研修についても情報を収集し、積極的な参加を推進している。園内においては、保育の目的に応じた公開保育や課題研究等の研修を実施している。また、知識、技術、技能等の水準、資質、力量の向上に向けた個別指導の実施や保育士の経験年数や保育の資質向上に関わる研修への参加を推進している。          ・研修報告書を作成し職員会議等で報告をし、研修成果を確認している。また、当該職員も含め研修報告を受けた職員が、研修成果を保育内容に反映させている。研修計画は、年度末に見直しをしている。</p> <p>・個別の職員に対する教育や研修について、研修成果の評価や分析が行われていないので、報告書等の中で研修成果に関する評価や分析が示されるような工夫を望みたい。</p>	
<p><b>【実習生の受入れ】</b>          ・受け入れにおいて、実習依頼校と覚え書を取交し、実習における責任体制を明確にした上で、実習マニュアルに沿って事前のオリエンテーションを行い、受け入れをしている。また職員会議等で職員に説明をし、適切な体制で行われている。</p>	

## II-3 安全管理

	第三者評価結果
--	---------

II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。			
II-3-(1)-①	緊急時(事故、感染症の発生時など)における利用者の安全確保のための体制が整備されている。	保 25	Ⓐ ・ b ・ c
II-3-(1)-②	災害時に対する利用者の安全確保のための取り組みを行っている。	保 26	Ⓐ ・ b ・ c
II-3-(1)-③	利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	保 27	Ⓐ ・ b ・ c
II-3-(1)-④	調理場、水周りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような体制が整備されている。	保 28	Ⓐ ・ b ・ c

#### 評価機関のコメント

<p><b>【事故、感染症の発生時などにおける利用者の安全確保のための体制整備】</b>  ・行政の危機管理や保健衛生、災害対策等のマニュアルを基に、保育園の必要事項を加味した事故発生時の対応や感染症、不審者の対応等についてのマニュアルを作成し、会議等で職員に周知徹底を図っている。また、保護者にも周知し理解を広げるようにしている。  ・子どもの安全確保に関する担当者や担当部署を設置し、定期的な会議で安全確保に関する検討を行い実施する体制を整えている。  ・感染症に関してのマニュアルを整備し、職員に配布し周知を図っている。保護者には、発病時における状況や対策、感染予防に関する対策などの文書を配布したり、掲示板に掲示したり、登降園時の折、口頭で保護者に周知している。  ・不審者対応については会議等で周知を図り、不審者侵入の想定や地域情報を基にしたシミュレーションを行い園児の安全確保を心がけている。</p>	
<p><b>【災害時に対する利用者の安全確保のための取組み】</b>  ・災害時に対応できるマニュアルを整備し、災害発生時の対応や体制が明確に示されている。それに基づいた訓練も実施され見直しも行われている。  ・保護者に災害時の対応について話し合う機会や書面の配布により周知を図り、保護者の協力を得て不審者や津波災害時の引き渡し訓練を実施している。</p>	
<p><b>【利用者の安全確保のためのリスクの把握と対策の実行】</b>  ・子どもを取り巻く環境の安全に関する事例や種々の点検を通して、会議等で発生要因を分析し防止策を検討している。また、ヒヤリハットや安全チェックを基に安全に配慮し事故防止に努めている。  ・施設遊具等の安全に関する各種の安全チェックリストに基づき、職員と共に危険個所の早期発見や修復に努め、危険回避をしている。また、遊具や備品の安全性の確保に向け、定期的に専門機関に点検を依頼し、そのリスクに対しては、早急に対応し安全確保に心がけている。園児には、視聴覚教材や散歩、各訓練や指導等を通して安全教育を定期的に行っている。</p>	
<p><b>【調理場、水周りなどの衛生管理や食中毒等の発生時の対応と体制の整備】</b>  ・調理の衛生管理やノロウイルス等についての管理マニュアルを、担当職員に配布し周知を図っている。定期的な衛生管理に関する会議や研修に担当者を参加させ、職員会議等で報告をしている。また、マニュアルに沿って、常に清潔状態を保ち適切に実施され、日々の業務点検チェックも行っている。  ・食中毒発生時に対応できるマニュアルがあり、対応方法については社会福祉協議会や近隣の保育園と連携を図りながら的確に対処する仕組みが整っている。  ・保健所の食品衛生監視指導監査を毎年受けている。</p>	

#### II-4 地域との交流と連携

			第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。			
II-4-(1)-①	利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	保 29	Ⓐ ・ b ・ c
II-4-(1)-②	保育所が有する機能を地域に還元している。	保 30	Ⓐ ・ b ・ c
II-4-(1)-③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	保 31	a ・ Ⓑ ・ c

II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。			
	II-4-(2)-① 必要な社会資源を明確にしている。	保 32	① ・ b ・ c
	II-4-(2)-② 関係機関等との連携が適切に行われている。	保 33	① ・ b ・ c
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。			
	II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズを把握している。	保 34	a ・ ① ・ c
	II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	保 35	a ・ ① ・ c

### 評価機関のコメント

#### 【地域との関係の適切な確保】

・子どもの保育と地域の関わり方について、子どもの社会体験や地域の中での子育て支援の基本的考えについては保育課程に位置付け、地域の理解や協力を得るための働きかけをし、実践活動として積極的に参加している。遊びを通して、地域の老人会と芋や玉ねぎ、大根などの収穫体験や七夕、運動会などの行事で交流している。地域ボランティアの情報を収集し、手品、畑や清掃など地域の人材を活用し、一緒に遊んだり行事等で協働する体制を整えている。また、施設長は地域の会合や祭りに出席をし、学校関係者や民生委員、町内会長など地域の代表との情報交換をし、地域との関わりを図っている。保育体験で近隣の中学生や高校生を受け入れ、交流の場を設けている。受け入れの際には、担当者が位置付けられ、意義や方針を職員間で理解している。

・保育所が有する機能の地域への還元については、園庭開放や保育園の見学を通して遊びの場の提供や相談にも応じている。育児相談の中で、地域の未就園児や保護者へ、地域の保育園や幼稚園の子育て支援情報などの提供を行っている。ホームページや掲示板、リーフレットで行事や子育てに関する遊びや情報などを広めるようにしている。園内に子育て支援センターが併設され、親子遊びや育児相談、保健師の講話や講師を招いての遊びの提供などを行っている。支援センター便りは、町内会回覧板で地域へ回覧したり、公共施設に設置している。

・ボランティア受入体制については、ボランティア受入担当者が設置され、マニュアルも整備し受入体制を整え対応している。

・トラブルや事故の未然防止、有意義な機会とするためにボランティアへの研修や登録手続き、実施状況の記録なども整備されることを望みたい。

#### 【関係機関との連携の確保】

・保育園を中心としたネットワーク体制ができており、地域との関連図を作成し職員室に設置し、会議等で説明して共有を図っている。保護者には必要に応じて関係諸機関や施設の情報を提供したり、保護者向けの事業計画の中でも紹介している。

・担当課や医療機関、児童相談所、小学校、主任児童委員、嘱託医等との連携を図っている。小学校への行事等の啓蒙や小学校教員と職員との話し合いの場も設けている。また、入所している子どもの就学に際し、「保育所児童保育要録」に基づき個々の資料を作成して、各小学校に持参し、必要に応じて情報交換を行うようにしている。

#### 【地域の福祉向上のための取組】

・園庭開放や育児相談、保育園見学、子育て支援センター等を通して福祉、子育てニーズの情報を把握するようにしている。また、地域で定期的に開催される会議などに出席すると共に地域の行事に参加し、協力関係を保つ中で具体的なニーズの把握に努めている。

・保育園児や未就園児の保護者や地域交流事業等を通してアンケートを実施しニーズの把握に努めることも期待したい。

## 評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果	
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			
Ⅲ-1-(1)-①	利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	保 36	① ・ b ・ c
Ⅲ-1-(1)-②	利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	保 37	a ・ ② ・ c
Ⅲ-1-(2) 利用者満足の上昇に努めている。			
Ⅲ-1-(2)-①	利用者満足の上昇を意図した仕組みを整備し、取り組みを行っている。	保 38	① ・ b ・ c
Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			
Ⅲ-1-(3)-①	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	保 39	① ・ b ・ c
Ⅲ-1-(3)-②	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	保 40	① ・ b ・ c
Ⅲ-1-(3)-③	利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	保 41	① ・ b ・ c
評価機関のコメント			
<p><b>【利用者を尊重する姿勢の明示】</b>            ・一人ひとりの子どもを尊重した保育の方針が明示された文書を職員に配布し、口頭での説明等によって共通理解を図っている。また、各指導計画にも基本的姿勢が反映され、定期的な評価や見直しを行っている。保護者には、保育参観や行事などの折に具体的な場面や実態に合わせ話をするようにしている。また、子どもたちにも人権擁護に関わる話や視聴覚教材等を通して心を育てるようにしている。</p> <p>・「他人の干渉を許さない、各個人の私生活上の自由」に関する利用者のプライバシー保護については、マニュアルを基に、保育姿勢や意識的な事項等を保育場面に照らし合わせ読み合わせをして、周知を図るようにしている。</p> <p>・保育園を取り巻く地域の特性や家庭の背景、保護者や子ども一人ひとりの秘密保持の姿勢や意識を十分に理解し、場面に配慮したマニュアルの補足も期待したい。</p>			
<p><b>【利用者満足の上昇についての努力】</b>            ・保育参観や運動会、生活発表会等行事参加の機会を定期的に設け、直接意向や要望を聴くようにしたり、アンケートを実施している。また、個人懇談会や意見箱の常設、登降園時を利用した保護者とのコミュニケーションを通して意向を把握するようにしている。</p> <p>子育てに不安を感じている保護者には、積極的に声をかけ、話を聞き、相談にも応じている。</p> <p>得られた意向や要望等は、定期的な会議で分析や検討をし、結果や改善等を文書や口頭で保護者に伝えるように努力をしている。</p> <p>・子どもからは、保育の場面で意見を聞いたり反応を観たりして、子どもの思いや意見が反映できるように計画を見直し、実践に繋げるようにしている。</p>			
<p><b>【利用者が意見等を述べやすい体制の確保】</b>            ・相談窓口を設置し、日常的に接する担任以外に、複数の相談方法や相談相手があり、自由に選んで相談や意見を述べることができることを入園のしおりや園だよりに明記し、口頭でも保護者に周知している。登降園時には必ず門の前に立ち挨拶を交わし、園児の受け入れをしながらコミュニケーションを図っている。また療育機関の訪問予定を保護者に知らせたり、相談者のプライバシーを配慮し個室で相談を受けるようにして環境を整えている。相談記録も取っている。</p> <p>・苦情解決の仕組みが確立され、入園時に保護者に口頭や書面で説明をし、分かりやすい文書で掲示もしている。苦情受付書に記録をし、対応策等を保護者等にフィードバックしている。</p> <p>・苦情に限定されない保護者からの意見や提案への対応マニュアルを整備し、記録に明記している。日常的なコミュニケーションによる平易な事項も明確に記録している。寄せられた意見や提案は適宜、職員間で話し合い、迅速に対応するように努めている。保護者には経過や結果をフィードバックしていくようにしている。</p>			

### Ⅲ-2 サービスの質の確保

		第三者評価結果	
Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。			
Ⅲ-2-(1)-①	サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	保 42	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-2-(1)-②	評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善計画を立て実施している。	保 43	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-2-(2) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。			
Ⅲ-2-(2)-①	提供するサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	保 44	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-2-(2)-②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	保 45	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。			
Ⅲ-2-(3)-①	利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	保 46	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-2-(3)-②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	保 47	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-2-(3)-③	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	保 48	Ⓐ ・ b ・ c

#### 評価機関のコメント

##### 【サービスの質の向上に向けた組織的な取組】

・保育の資質向上や保育サービスについて定期的に自己評価を行い、職員の個人面談で課題の整理や改善に向けて検討する機会や園全体で検討する場を設け、園の保育に反映させるようにしている。

##### 【提供するサービスの標準的な実施方法の確立】

・「標準的な保育の実施方法」が文書化され、それに基づいた個々のサービスが実施されている。子どもの年齢や発達と保育内容、指導計画との関連性や妥当性について職員の共通理解を図り、共通の対応で実践されるように心がけている。

職員会議等によって職員に周知され、保育計画との突き合わせや実施状況の確認、見直しは定期的に保育等の検討会で行われ、職員の意見や提案等が反映されている。

・計画と実践状況との見直しはされているが、保育士間での実施の手順や方法の妥当性などについての検証等も、保育の質の向上という観点から考慮していくことを期待したい。

##### 【サービス実施の記録の適切化】

・子ども一人ひとりの発達状況、保育目標、生活状況、健康や安全衛生、食育、危機管理等についての各記録が適切に記載されており、全ての職員に情報の共有化を図り周知している。また、子どもに関する記録の管理について、個人情報保護規定や情報開示規定、文書管理規定に基づいて適切な管理が行われている。職員に対し教育や研修を行い、守秘義務の遵守についても周知徹底を図っている。

・子ども一人ひとりの発達状況、保育目標、保育の実際について、定期的に職員会議や年齢ごとに検討をしたり、療育機関の巡回訪問指導の助言や指導を基にしたケース検討会の情報を職員間で共有を図っている。

### Ⅲ-3 サービスの開始・継続

		第三者評価結果	
Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(1)-①	利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	保 49	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-3-(1)-②	サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	保 50	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。			
Ⅲ-3-(2)-①	保育サービスの変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	保 51	a ・ Ⓑ ・ c

#### 評価機関のコメント

##### 【サービス提供の開始・継続の適切な実施】

・利用希望者に対してサービスの選択をするための資料として、ホームページや、入園時の書面、園だより等でサービス提供に関わる情報提供を行っている。また、荒子保育園の園紹介パンフレットを社会福祉協議会に置き、情報を広域に提供している。保育園の見学希望者は、随時受け入れ、電話等の対応もしている。ホームページで、保育園の特性や特徴を活かした情報を広域に提供している。

・社会福祉協議会により、入園決定に関する書面や保育サービス、料金等明示した資料を保護者に送付または、配布をし、関連書面のデータ化を行っている。入園時に書面を配布し説明したうえで同意を得ている。スポーツ振興センターの加入や個人情報について説明し、同意書を得ている。

・退園・転園、保育サービスの変更等に関する文書の取り交わしは行政で行われている。また、転園児については個人情報を考慮し必要に応じて保育に関する情報の提供をし、サービスの継続性に配慮している。

卒園時や退園・転園の際に、保育終了後も相談等に応じることを保護者に口頭で説明をするようにしている。

・パンフレット、お便りなどに文書で明示し、啓蒙していくことを期待したい。

### Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

		第三者評価結果	
Ⅲ-4-(1) 利用者のアセスメントが行われている。			
Ⅲ-4-(1)-①	定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	保 52	① ・ b ・ c
Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。			
Ⅲ-4-(2)-①	サービス実施計画を適切に策定している。	保 53	① ・ b ・ c
Ⅲ-4-(2)-②	定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	保 54	① ・ b ・ c

#### 評価機関のコメント

<p>【利用者に対するサービス実施計画の策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもや保護者の身体状況や生活状況を把握し、個別に記録をし、定期的に見直しをし、指導計画に反映させ保育実践に繋げるようにしている。</li> <li>保育指針を基に、子どもとその背景にある家庭や地域の実態把握を考慮し、子どもの発達状況を見通し、生活や遊びの連続性や環境、季節の変化などに配慮して保育計画や指導計画を職員が参画し策定している。</li> <li>サービス実施計画の評価・見直しについては、保育計画は、職員が参画し年度末に見直し次年度に反映させている。保護者には入園式で説明し、同意を得るようにしている。また、各指導計画においては、定期的又は毎月・週・日ごとに評価・見直しを行い、次回へ反映させている。また、実際の保育に際しては、子どもの状態や状況に応じて、柔軟的に指導計画の変更を行い、見直しをするようにしている。</li> </ul>			
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--

### Ⅲ-5 保育所保育の基本

		第三者評価結果	
Ⅲ-5-(1) 養護と教育の一体的展開			
Ⅲ-5-(1)-①	保育所の保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即した保育過程を編成している。	保 55	① ・ b ・ c
Ⅲ-5-(1)-②	乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	保 56	a ・ ② ・ c
Ⅲ-5-(1)-③	1・2歳児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	保 57	① ・ b ・ c
Ⅲ-5-(1)-④	3歳以上児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	保 58	① ・ b ・ c
Ⅲ-5-(1)-⑤	小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮されている。	保 59	① ・ b ・ c
Ⅲ-5-(2) 環境を通して行う保育			
Ⅲ-5-(2)-①	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境が整備されている。	保 60	① ・ b ・ c
Ⅲ-5-(2)-②	子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるような環境が整備されている。	保 61	① ・ b ・ c
Ⅲ-5-(2)-③	子どもが主体的に活動し、様々な人間関係や友達との協同的な体験ができるような人的・物的環境が整備されている。	保 62	① ・ b ・ c
Ⅲ-5-(2)-④	子どもが主体的に身近な自然や社会とかかわれるような人的・物的環境が整備されている。	保 63	① ・ b ・ c
Ⅲ-5-(2)-⑤	子どもが言葉豊かな言語環境に触れたり、様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が整備されている。	保 64	① ・ b ・ c
Ⅲ-5-(3) 職員の資質向上			
Ⅲ-5-(3)-①	保育士が主体的に自己評価に取り組み、保育の改善が図られている。	保 65	① ・ b ・ c

## 評価機関のコメント

### 【保育所保育の基本】

(養護と教育の一体的展開)

・児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法に示されている趣旨を踏まえ、保育所保育指針に基づいた荒子保育園の保育課程が編成されている。子どもの遊びや生活を通して、「心身共にたくましくよく遊ぶ子」を目指して、「生命を大切に思い自ら安全に行動できる能力を身につける、自分で考え自主的に行動し最後までやりとげる態度を育む、友達を思いやり互いに助け合う気持ちを育てる、自分の気持ちや考えを素直に言葉や態度で表現できるようにする、動植物に十分触れやさしい気持ちや探究心を育む、興味や感動、驚きの行動を大切に創造力を養う」を培うことに心がけ、心と体のバランスのとれた保育内容を編成し、入所する全ての子どもを対象とし、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即し、保育時間などを考慮した保育課程を職員参画の下で編成している。また、定期的に評価し、評価に基づき改善を図っている。

・乳児保育のための環境整備については、安全や清潔に配慮し、子どもの発達や発育に応じた環境や用具などを設定し、子どもの生活リズムに応じて丁寧でゆったりとした保育を心がけている。外気に触れたり、戸外遊びも積極的に取り入れられている。また、職員に乳幼児突然死症候群に必要な知識が周知され、事故防止や乳幼児突然死症候群のチェックを実施している。子どもの心情や欲求に応じて抱っこしたりおんぶをし、スキンシップをしながら情緒の安定を図っている。生活空間を遊び・生活・昼寝に区分し、生活の機能に応じた快適な生活空間が保たれるようにしている。また、未満児専用のサンデッキや園庭が設けてあり、砂場やブランコなどで存分に遊べる環境が整えられている。

・職員休憩室と隣り合わせているフリースペースの遊び場の、用具や物の配置を工夫したり整理整頓などに心がけ、子どもが安全で伸びのびと遊べるような環境整備を望みたい。

・1・2歳児の保育については、子どもの発達や発育に応じた生活や遊びができるように、年齢別に保育室を確保し、安全で清潔な環境や遊具、用具などを設置している。また、子どもの生活リズムに応じて丁寧でゆったりとした保育に心がけている。

1・2歳児の子どもの発達の特徴を踏まえ、一人ひとりの育ちに合わせ基本的な生活習慣が身につくように配慮し、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重して子どもに関わるようにしている。子どもの自己主張や自我の育ちを支え、子どもの気持ちを受け止めるように個別の関わりをしたり、人や物への探索行動が存分にできるように安全に配慮しながら環境を整え、自発的な遊びができるように子どもの状況を観ながら関わるようにしている。

・3歳以上児の保育については、各保育室とも安全で清潔な環境を整え、それぞれ年齢に応じて自由に表現したり、友だちと協同的な活動ができるような遊具や用具を設置している。それぞれの年齢の発達の特徴を踏まえ、一人ひとりの育ちに合わせて基本的な生活習慣の定着を図り、友だちや他の人々との関わりを深め、ものごとへの関心を高めていくように配慮しながら子どもと関わるようにしている。

保育所保育指針に示されている5領域の内容を、遊びや生活を通して総合的に身につけられるように計画に位置付け、それに基づいて保育が展開されている。

・小学校との連携については、小学校見学、ふれあい遊びやウォークラリーなど、小学校行事への参加を通して、小学校への期待が持てるような活動を取り入れている。

自尊感情の育みや協同的な活動を通して社会性を養う、知る楽しみや好奇心の助長など学びに向かう基礎作りを、遊びを通して行っている。また、生活や遊びを通して文字や数の認識を促す活動をしている。

入所している子どもの就学に際し、「保育所児童保育要録」に基づき個々の資料を作成して、小学校に持参し、必要に応じて子どもの生活や発達の連続性を踏まえた情報交換を行うように努力している。また、保護者には、保育参観で子どもの様子を観る機会があり、その中で施設長は小学校以降の生活を見通せるような話もしている。

#### 【環境を通して行う保育】

(子どもが心地よく過ごすことのできる生活にふさわしい場の確保)

- ・室内の採光、換気、温度、空気の清浄などに配慮し清潔で明るく過ごせるように心がけている。また、遊具や用具なども安心して使えるようにチェックリストを使用して点検をしている。砂場のキャットアウト対策として、掘り起こしなどをして砂の清潔を確保し、清潔で安全に遊べるような環境を整えている。
  - ・保育室環境はコーナーが設定され、大型玩具や用具、絵本や教材が年齢や人数に応じて整い、遊びの広がりやくつろぎが確保され、家庭的な親しみが醸し出されている。
- 生き物を飼育したり、草花や身近な野菜などを植えたり、季節感が漂う子どもの作品を展示し、保育環境の工夫がされている。また、食事時には整理整頓を適切に行い、食事の空間を確保している。子どもの心情や状態に応じて、くつろいだり落ち着くことのできる場で、保育士が身近で穏やかに応じている。

(子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができる環境の整備)

- ・子ども一人ひとりの発達を把握し、基本的な生活習慣や生理現象など、子どもの状況を配慮し、強制や制限をせず、一人ひとりの子どものリズムや気持ちに沿った関わりをしている。戸外や室内で遊ぶ空間も確保され、子ども自ら進んで身体を動かして遊んだり、様々な遊具や用具を使った遊びを楽しむ環境が整えられている。

(子どもが主体的に活動したり、友達との協同的な体験ができるような環境)

- ・子どもが主体的に活動できるように、子どもの発達や季節に応じた玩具や遊具、素材や用具を用意し、自由にやり出しで遊んだり、好きな遊びができるコーナーや自由に遊べる時間が確保され、子どもの主体性が発揮できるような働きかけをしている。また、子ども同士で協同して遊びを造ったり進めて行く機会が提供されている。当番活動なども年齢に応じて子どもが役割を果たせるような取り組みが行われている。
- ・遊びや生活を通して自然に異年齢で遊ぶ機会や散歩や収穫体験、食事会など意図として交流する機会を作り、人との関わりを大切にしている。
- ・5歳児のサッカー教室やリズム運動の醍醐味は、5歳児の姿を介して、年下の子どもがあこがれや挑戦する気持ちを育むような環境を整えている。

(身近な自然や社会とかがわかれるような環境の整備)

- ・広々とした園庭には、年輪を重ねた桜や楠などの木々、花壇があり、保育園に居ながらにして四季の変化を感じ取れる環境にある。昆虫やメダカ、ザリガニなどの飼育や草花や野菜の栽培などを通して生物に興味を持ち可愛がる心を育むようにしている。
- ・散歩を通して、消防署の見学や神社など街並みを散策したり、木の実や木の葉を集めて遊びに活かしたりして身近な社会事象や自然事象に触れる機会がある。また、老人会との収穫体験や遊びの交流、手品など地域ボランティアとの遊びの体験を取り入れている。公共バスを利用して水族館や公園へ遠足に出かけたりするなど公共の場での交流や地域の人々と積極的に関わられるようにしている。

(豊かな言語環境や様々な表現活動が自由に体験できる環境の整備)

- ・子どもの作品が保育に活かされ、工夫して作ったり飾ったりし、大切に扱われている。また、保育士それぞれの個性を活かした展示物や小物などは、子どもの作品をより引き出す環境素材としてさりげなく取り入れられている。表現活動に必要な色紙、クレパス、粘土などの素材が自由に使えるように用意されている。また、ピアノ、カスタネットなどの楽器も子どもの興味に応じて使えるように用意されている。日々の保育の中に絵本の読み聞かせや素話、紙芝居などを積極的に取り入れたり、手作りカードや当番活動を通して文字や数字に興味や関心が向けられるようにしている。
- ・自由に表現する楽しさを味わうためのコーナーや場が設けてあり、遊びを楽しめるようにしている。

(主体的な自己評価の取組みと保育の改善)

- ・保育に関わる計画や記録と保育実践を、保育の資質向上や保育サービスについて定期的に自己評価を行い、改善に向けて検討する機会を設け職員間で共有化を図っている。また、自己評価の内容の妥当性を検証しつつ、結果を分析し課題を示し、改善計画や改善策を園の保育に反映していく努力をしている。

### Ⅲ-6 子どもの生活と発達

		第三者評価結果	
Ⅲ-6-(1) 特別なニーズに応ずる保育			
Ⅲ-6-(1)-①	子ども一人ひとりを受容し、理解を深めて働きかけや援助がおこなわれている。	保 66	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(1)-②	障害のある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	保 67	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-6-(1)-③	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	保 68	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(2) 子どもの食と健康			
Ⅲ-6-(2)-①	食事を楽しむことができる工夫をしている。	保 69	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(2)-②	乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている。	保 70	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(2)-③	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	保 71	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(2)-④	子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	保 72	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(2)-⑤	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	保 73	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(2)-⑥	アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	保 74	Ⓐ ・ b ・ c

#### 評価機関のコメント

##### 【特別なニーズに応ずる保育】

・子ども一人ひとりの違いを十分に把握し、職員間で話し合い、理解を深めるようにしている。また、それぞれの子どもを受容するための援助活動を指導計画に位置付け、実際の保育場面の対応や言葉かけも子どもをよく受容するように努めている。

・気になる子や特別支援を要する子どもについては、個別指導計画を立て個別記録を取り、ケース検討会で共有を図り子どもの状況に応じた保育をしている。また、児童相談所や療育機関、大学教授による指導や助言も受けている。保護者とは、日常的に話し合う機会を設け、子どもの状況や発達課題等についての情報を共有し認識の相違がないように努めている。

・気になる子や特別支援を要する子どもが、他の子どもとの生活を通して共に成長できるように、その子どもの生活や遊びが指導計画の中で位置づけられている。指導計画と個別記録との記録内容がより明確性で、整合性のある内容になるような工夫を望みたい。

・長時間にわたる保育については、延長保育計画に基づいて、ゆったりとした保育を行っている。子どもの状況について、職員間の引継を文書で明確に行い、子ども一人ひとりの気持ちに沿うような保育に心がけている。子どもの思いに沿ってゆっくりくつろいだり、異年齢でも遊べるように配慮をしている。また、保護者への連絡は、口頭や文書、または、状況に応じて直接担任が伝えるようにしている。保護者以外の迎えや担任と直接話す機会の少ない保護者との連絡事項の伝達方法や連携方法に配慮をしている。

##### 【子どもの食と健康】

・子どもが育てた野菜を収穫したり、野菜の皮むきなどの体験を通して食育推進事業に取り組んでいる。給食のサンプルを展示したり、食事に関わる調理員と言葉を交わし、食べ物に関心を持つようにしている。また、食事環境を清潔に整え、会話を楽しんで食事したり、年齢に応じて片付などに参加できるように配慮している。体調や個人差、食欲に応じて食事も配慮している。

・乳幼児にふさわしい食生活の展開については、職員も子どもと一緒に食事をしながら、好き嫌いや食事量を把握している。時には食事に関わる調理員も子どもと一緒に食事をし、食事の様子を見て献立に反映させている。献立は、旬の物や季節感のある食材を活かし、手作りおやつや行事食も取り入れている。喫食状況や残食の調査記録をまとめ、献立や調理の工夫に反映させている。

・食事について家庭との連携については、発育期にある子どもの食事の重要性や食材の活かし方などを掲載した毎月の「献立表」を事前に配布したり、通用口付近に食育コーナーを設置し毎日の給食サンプルやレシピを展示し、保護者に知らせている。また、食育計画の一環として、給食試食会を開催して子どもと一緒に給食を楽しむ中で、栄養、味付け、量、マナー等を知らせる機会も設けている。

・子どもの健康に関しては、健康管理に関するマニュアルがあり、これに基づいて子ども一人ひとりの健康状態に応じて、適切に対処している。また、子どもの健康管理は、入園時に健康記録や生活状況に基づいて個別的に把握している。既往症やアレルギー、予防接種の状況等については保護者からの情報を得て管理し、対応の配慮を行っている。怪我や体調不良、感染症、視診等の健康マニュアルを作成している。

・個々の健康状態や健康診断等の記録は適切に処理・管理している。保育時間内での体調の変化については施設長や副園長が把握し対応している。状態に応じて柔軟的な保育を実施し、保育園での健康状態を保護者に伝え、降園後の対応にも配慮している。また、職員にはマニュアルを配布し、必要な知識等を習得できるように会議で周知を図っている。

・健康診断、歯科検診を定期的に受診し、その結果を文書や口頭で保護者に伝え、保育に反映させている。受診の結果は個人情報であることに留意して、守秘義務が遵守されるようにしている。また、嘱託医とカンファレンスをし、子どもの健康管理についての情報交換を行っている。

・アレルギー疾患を持つ子については、アレルギー調査をし、入園時の面接や健康記録、生活記録等を基に医師の診断書や指示書を得て、保護者、施設長、副園長を交え綿密な打ち合わせを行ない、献立表を基に保護者の意向を聞きながら、調理員と連携をし、除去食や代替食で対応をしている。また、日々の保育では、施設長や副園長、担当保育士、調理員が綿密な連携を図り対応をしている。

・会議等で全職員にアレルギー疾患や慢性疾患についての必要な知識や情報を周知させ、実際の保育については徹底した対応がされるようにしている。

### Ⅲ-7 保護者に対する支援

		第三者評価結果	
Ⅲ-7-(1) 家庭との密接な連携			
Ⅲ-7-(1)-①	家庭と子どもの保育が密接に関連した保護者支援を行っている。	保 75	① ・ b ・ c
Ⅲ-7-(1)-②	子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けている。	保 76	① ・ b ・ c
Ⅲ-7-(1)-③	虐待に対応できる保育所内の体制の下、不適切な養育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び虐待の予防に努めている。	保 77	① ・ b ・ c
評価機関のコメント			
<p><b>【家庭との密接な連携】</b>            ・個人懇談会や家庭訪問に加えて、登降園時を利用した保護者とのコミュニケーションや掲示板などを通して意向を把握し、共通理解を深めるようにしている。また、毎月の園だよりや個々のたより、子どもの作品展示等の機会に、保護者と共に子どもの成長の喜びを共有できるように支援をしている。家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。</p>			

・個人懇談会、保育参観、運動会や生活発表会等行事参加の機会を定期的に設け、保護者と話し合う機会を作り共通理解を深めるようにしている。また、子育てに不安を感じている保護者には、積極的に声をかけ、話を聞いたり相談に応じたり、必要に応じて社会福祉協議会と連携を取るようになっている。

・意見箱も常設しており、保育参観や行事の後に、保護者向けのアンケート調査を実施するようになっている。

・職員に対して、虐待に関する理解を促すための取り組みや対応等についてのマニュアルを整備し、日常の送迎や保護者とコミュニケーションを通して早期発見に努め、状況を詳細に記載している。また、マニュアルに基づく研修を行っている。虐待の疑いが生じた場合、直ちに副園長や施設長に伝え、情報や状態を確認した上で、直ちに、行政、児童相談センター、警察などの関係諸機関に照会、通告を行う体制が整っている。